



安心院縄文会 会長  
安倍 邦昭

## 機関誌「安心院縄文」 第36集の発刊に寄せて

昨年5月の安心院縄文会定期総会に於て、永年、当会を引っ張ってこられました、林禎紘前会長の後を仰せつかりました、安倍邦昭です。

2010年、45年振りに帰郷（佐田）し、ふるさとのことをほとんど知らない事に気付き、知人を介して2013年に入会させて頂きました。

まだまだ“ふるさと”の事は知らないことだらけではありますが「ふるさとを誇りに思い、愛することは、ふるさとを知ること」を胸に皆様方のご指導ご協力を仰ぎつつ、この大役を全うすべく努めて参ります。宜敷くお願い申し上げます。

さて、この一年の会の活動を振り返ってみますと歴史探訪を2回、講演会を共催を含め3回、そして宇佐社会福祉協議会のボランティア活動に参加（6回）、その他、あじむ学講座（2回）、佐田時代めぐりウォーク、米神山巨石祭等、地域行事への参加等々多くの活動を実施することが出来ました。

講演会では、前奈多神宮宮司水口忠宏氏による「古代宇佐国」発展に多くの渡来人の生産技術や先端知識が大いに貢献しており、又、宇佐神宮の放生会誕生にかかわる話等を、各地に残る神社や伝承の面から解き明かして下さいました。興味深い内容でありました。

夏季と秋季の講演会では、地域の偉人について話を聞くことが出来ました。

久留島武彦記念館 金成妍 館長講演会では、韓国語を母国語とする金氏が日本の童話作家の事跡を調べ、その思想、作品を研究する困難な作業と記念館設立に至る苦労話を聞くことが出来ました。

又、この講演開催については、広く町内各方面に声掛けをし会員以外にも多くの方々の参加を見ることが出来ました。その過程で安心院小学校長室に久留島武彦直筆の額があることも判明し、望外の発見もありました。

今後共、この様に会の外にも開かれた企画を考えてまいります（地域と共にある縄文会）

秋の講演会は共催となりましたが、郷土の偉人、小野西洲（津房出身）と中島力男（乙女出身）の日本統治時代の台湾での語学と水利事業に貢献し、日台の交流に多大な影響を及ぼした事跡について知ることが出来ました。小野西洲については、生誕140年になることから津房小学校の児童が調べそれを劇にして、文化祭で地域の人々に発表した事も素晴らしい出来事であります。

歴史探訪は、夏に細菌学者の北里柴三郎記念館（小国）を訪ねました。又、阿蘇神社、新阿蘇大橋を訪ね、熊本地震による被害のすさまじさと復興状況を目の当たりにして、防災対策の重要性を改めて認識させられました。

秋には、糸島を訪ね古代日本の玄関口である当地の地理的条件や当時の繁栄振りに思いをめぐらせました。

当縄文会では、毎年一回機関誌「安心院縄文」を発行しております。研修内容や講演内容を記事として載せており、関係機関にも無料で配布し、広く地域の人々に目を通して頂いております。この発行に関しましては、地元の企業、団体の皆様方から当会の主旨にご賛同頂き、暖かいご浄財（協賛金）のご支援により成り立っております。（誌末に掲載）誌面を借り厚く御礼申し上げます。

今後共、地域の文化遺産と自然景観を探訪し、地域の発展に資する活動を地域の皆様と共に歩んで参ります。宜敷くご指導ご支援を賜り度くお願い申し上げます。